多摩市立図書館本館再構築基本構想（原案）への質疑応答・ご意見
～図書館本館再構築市民フォーラム（12 月 3 日）～

質問者①

基本構想のまとめに携わった方には敬意を表す。多摩市の図書館が貧しいことを心配していたが、やっと目を開いてもらった感がある。この先のスケジュールとしては、市民にいかに伝えていくのか。これをもう少し丁寧に説明をしていかないと、この構想が計画に活きてこないのではないかと懸念がある。

回答（図書館長）

基本構想を今後、基本計画に進めていきたい。本日は基本構想原案を参加者全員に配布した。パブリックコメントも閲覧資料を 1 部置くだけでなく、貸出用も用意し、みなさんに読んでいただきたいと配慮してきたつもり。限られた期間ではあるが、パブリックコメントを寄せてほしい。

質問者②

豊ヶ丘の図書館は、年間、延べ 6 万 1 千人の方が利用している。本館も唐木田もない時は、大変混雑していたが、今はちょうどよい図書館になっている。図書館のやってきた実績を踏まえて、中央図書館をつくるとしても、既存の良い所を伸ばす視点でいてほしい。

新本館がアカデミーヒルズの跡地にできるのは賛成だが、どのぐらいの規模となるのか、どのような枠組みとなるのか等がどの段階ではっきりとわかるのか。また職員の配置はどうなるのか。地域図書館は今までのようにやっていけるのか。地域のニーズにあった形で発展できるのか。

回答（図書館長）

基本構想の中では具体的に書かれていないが、現在の本館が 5,500 ㎡、耐荷重が学校のため、3,4 階の書庫はその面積ほどうまく使えていない。また、学校という特性があり廊下が広く、活用しきれていない。新しい図書館では 6,000 ㎡を想定しているが、現段階では床面積、階数などの具体的なことは決まっていない。今後の計画の段階で検討していくことになる。段階的に検討を行っていて、現在は基本構想を策定しているが、これが認められると次の基本計画に進める。計画の段階で職員数などの具体的なものも決まってくる。そうすると建設費や運営費もその段階で具体的なものが決まっていく。

豊ヶ丘等の地域館に関しても状況等を踏まえながら同時に検討していきたいと思う。

質問者②

人口規模で考えても、6,000 ㎡の大きさにしなくても、コンパクトでいいのではないか。広いほど経費は嵩むでしょう。地域館も存続するような予算の使い方を検討してほしい。

回答（図書館長）

市長から施設規模を 6,000 ㎡で検討するように言われているが、それを全部使うつもりではない、今後の維持を含め、現実的な計画を考える。

質問者③

ここ最近1年でパルテノン多摩、図書館が計画され、やれアンケートだ、ワークショップだ、委員会だとこの短い期間で、市民に理解を求めるのは暴挙ではないか。策定委員も市民とコミットするのは、時間をかけて行うのが前提と考えられているのではないか。進め方が拙速すぎるのではないか。

これは多摩市全体の重要なプロジェクトのひとつであり、市民の合意を得ていくのが最大のミッションだと思うが、それが欠けている。まさしく街づくりの観点で施策のリンケージが張られて、活性化につながるような検討がされなければならない。住宅立地を絡めて経過的に見て考えないといけないのは、マンション立地を見ても明らかで、この計画のプログラムが総合的に多摩市の全体の展望をもって検討されなければならない。ただこの委員会は、多摩センター全体の活性化や街のグランドデザインを話し合う場ではない。パルテノン多摩や中央公園は街の設計を俯瞰して考えなければならない。どう考えているのか

回答（図書館長）

図書館としては、本館の再構築に関して、唐突なものとは考えていない。

前提として、平成20年に暫定活用として10年程の期限を設けており、また平成25年11月の行動プログラムにおいても候補地は変わったが、鶴牧倉庫跡地に整備というように、どこかに再整備していくという方針があった。平成22年の図書館協議会への答申においても多摩センター地区に置くのであれば、パルテノン多摩との連携をするなどという提言もあった。パルテノン多摩や中央公園などとの連携に関しては多摩センター地区の施設改修の担当課長会を開催し、情報共有や連携等についても議論している。

質問者③（意見）

東洋大学の根本先生もわざわざ市が呼んできて、その中で、根本先生は、「中央施設は一自治体でまかなう時代ではなくなっている」と言っています。

市民とともにやっているといえるのか。ワークショップをやっているから、委員に市民が入っているから、みんなが納得できるものではない。できる限りの努力がそこにあるのかが問われているのではないか。

質問者④

序章の「知の地域創造」を「知域創造」と4文字でまとめたらどうか

回答（策定委員会委員長）

「知」という言葉は「知識」という意味ではなく、広い意味で「文化」的な意味や人々のライフスタイルや心のもち方、健康増進等、幅広い意味合いで用いており、単なる経済振興ではなく、こういった視点で街づくりや図書館の創り方を考えたということ。

それが地域創造だと国策も含めてしまうので、ボケてしまうのではないか。「地域創造」と「知」というふたつの言葉はそういう意味で使い分けている。概念を明確に決めてやるのではなく、文化とは幅広いものでそういうものではないか。生活の中で何を大事にするのか市民によって違うので、そういう意味で「知」を使ったと考えてほしい。哲学の「フィロソフィー」の語源は「知を愛する」「知

的生活を愛する」ということだが、その「知」でもいいのではないか。問題提起として策定委員会から提案した言葉。

質問者⑤

新本館整備し、地域館を削減するつもりなら、6,000 ㎡では足らない。現時点で多摩市の図書館のレベルは高く、読書できる環境も整っているので、いっそのこと、多摩市を「日本一、図書館を活用できる分散システムを達成できている街」といったようにキャッチフレーズ化すると本館の作り方が変わるのではないか。地域館がなくなるという不安がなくなるようにしたい。アクセスの近さは大切で、運営方針にも「だれでも使える図書館」と掲げている。多摩市全域に広げようという理念を先に出してはいかがか。地域館にも、規模は小さくても新しい機能はあってほしい。そう考えた方がつくりやすくなるのではないか。

回答（図書館長）

図書館を使うことに障がいがある方もいるので、団体貸出や宅配サービス、障がい者サービス等、既に行っているサービスもある。だれもが使える図書館という意味では、地域館のこともふまえて、もっと多様な意味合いで検討をしていきたい。

質問者⑥

図書館の規模は人口だけで決まらない、利用の多さが要因になったり、ラーニングコモンズのような使われ方があれば、既存の図書館より広くなると思う。

今回は中央図書館中心の検討ということだが、第 3 章に書いてあるようなサービスに関しては、地域館含めて全体の図書館システムとして検討していくべきであると思うが、原案からは読み取れない。サービスは中央図書館かもしれないが、運営は地域図書館も含めて考えていただきたい。

回答（図書館長）

例えばアニメなどの場合に、ブースをつくらなくても、地域館では資料配置をすることでサービスを提供できる。新しい施設をつくるということでは中央館の整備となるが、サービスや運営に関しては、地域館も含めて検討していきたいと思う。

質問者⑦

欧米の図書館の話が講演ででたが、歴史から学び、ここから先 30 年間ぐらいのビジョンを持って考えることは重要。そのようなビジョンを持っていて、構想をたてられる人は多摩市においては、だれなのか。欧米と多摩市の現状を比較して答えほしい。

回答（策定委員会委員長）

欧米の図書館について精通しているわけではないが、各国様々なユニークさはある。ただそれを模範にして基本構想を創るということはやっていない。多摩市に住んでいる者として、県や国の図書館ではなく市の図書館としてどうあるべきか。それを時代の変動の中でどう位置づけるか。そのような角度で考えた。ただ、面白い図書館とは多様である。面白い本を紹介する、『世界のびっくり図書館』

という本があるが、それをみると従来の図書館に当てはまらないような奇抜なものや、ある点に特化したものなど、多様性がある。そのようなものも参考になる。

パブリックコメントについて。「基本構想（原案）」の読み方についてだが、課題などを読み取る際、各種ヒアリング等から集約されており、読み込むのは大変だが、重要なことなので、意見をいただきたいと思う。